

<バイオ医薬品・リサーチ・レポート>

バイオ医薬・株式市場ニュースレター

■市場レビュー

2026年2月、先進国株式は上昇した。バイオ医薬セクターの銘柄群は先進国株式全体を上回る上昇となり、先進国の大型ヘルスケアセクターを僅かに上回った。臨床試験結果がポジティブとなった企業としては、アトピー性皮膚炎での米ネクター・セラピューティクス（NKTR）、皮膚サルコイドーシス（肉芽腫という炎症細胞の小さな塊ができる難病）での米ロイバント・サイエンシズ（ROIV）、軟骨無形成症での米ブリッジバイオ・ファーマ（BBIO）などが挙げられる。

一方、ネガティブまたは賛否両論ある報告をした企業としては、肺動脈性肺高血圧症での米ゴッサマー・バイオ（GOSS）、喘息領域での米アップストリーム・バイオ（UPB）、プラダー・ウィリー症候群という先天性の難病に対する領域での米アードバーク・セラピューティクス（AARD）があった。

米国食品医薬品局（FDA）からの承認を取得したのは、デンマークのアセンディス・ファーマ（ASND）の軟骨無形成症治療薬・Yuviwel、および米バンダ・ファーマシューティカルズ（VNDA）の統合失調症および双極Ⅰ型障害（いずれも精神疾患領域）治療薬・Bysanti、国際的企業であるノボキア（NVCR）のすい臓がん治療薬・Optune Paxであった。

FDAはフリードライヒ運動失調症という神経が変性していく先天性難病を対象として、米リマー・セラピューティクス（LRMR）の開発品・nomlabofusp にブレイクスルー（画期的）治療指定を付与した。一方、遺伝性の赤芽球性プロトポルフィリン症向け bitopertin に係る米ディスク・メディシン（IRON）による新薬申請に対して、承認拒否を意味する回答書を発行した。米 PTC セラピューティクス（PTCT）は、FDA からの指摘（基準を満たす可能性が低いこと）を受け、デュシェンヌ型筋ジストロフィー向け Translarna の新薬申請を撤回した。

i シェアーズ・バイオテクノロジーETF の価格推移（2020/2 末～2026/2 末）



(出所) ブルームバーグのデータを基にキャピタル アセットマネジメント作成

<免責事項>

当資料は、情報提供を目的として、キャピタル アセットマネジメント株式会社（CAM）が作成したもので、投資信託や個別銘柄の売買を推奨・勧誘するものではありません。また、CAM が運営する投資信託に当銘柄を組み入れることを示唆・保証するものではありません。当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。

<バイオ医薬品・リサーチ・レポート>

2月のM&A（企業の合併や買収）活動としては、米ギリアド・サイエンシズ（GILD）による細胞治療薬開発企業である米アーセレックス（ACLX）の買収（約78億米ドル、87%のプレミアム）、英グラクソ・スミスクライン（GSK）による肺動脈性肺高血圧症治療薬候補を開発しているカナダの35Pharma（非上場）の買収（約9.5億米ドル）、旭化成による重症感染症向け治療薬開発企業である独アイキュリス（非上場）の買収（約7.8億ユーロ、約1,431億円）が挙げられる。米Vir バイオテクノロジー（VIR）は前立腺がん向け開発品であるVIR-5500に係るライセンスをアステラス製薬に付与する見返りとして、契約金等約3.35億米ドルを受領する契約を締結した。

■パフォーマンス分析

2月のリターン上位		2月のリターン下位	
ネクター (+85%)	アトピー性皮膚炎に対する良好なフェーズ2b臨床試験結果	ストラクチャー (-29%)	肥満症治療薬分野への価格圧力からの連想
ロイバント (+34%)	皮膚サルコイドーシスに対する良好なフェーズ2試験結果	ブリッジバイオ (-14%)	ファイザーが競合品・tafamidis 欧州特許を取り下げ、競合激化連想
アムジェン (+14%)	2026年の売上・利益ガイダンスが市場予想を上回った	アルジェンX (-9%)	2026年の営業費用ガイダンスが市場コンセンサス予想を上回った

（出所）セクトラル アセットマネジメント資料に基づき当社が作成

■企業ハイライト：アーデリックス（ARDX）

ARDXは米国のバイオ医薬企業で、便秘型過敏性腸症候群（IBS-C）治療薬であるIbsrelaを開発した。IbsrelaはARDXの主力製品であり、2025年には売上高が2.74億米ドルに達した。同社は2029年には年間売上高が10億米ドルに達すると予測している。成長要因としては、IBS-Cにおけるアンメットメディカルニーズ（満たされていない医療の需要）の高さと、他の既存治療薬と異なる作用機序が挙げられる。

当資料は、世界バイオ医薬株式ファンドのアドバイザーであるセクトラル アセットマネジメントによる英語版ニュースレターに基づきキャピタル アセットマネジメントが翻訳作成したものです。権利上の都合などにより、省略または改変した部分があります。原資料にご興味があれば、当社マーケティング本部（marketing@capital-am.co.jp）までお問合せください。

以上

<免責事項>

当資料は、情報提供を目的として、キャピタル アセットマネジメント株式会社（CAM）が作成したもので、投資信託や個別銘柄の売買を推奨・勧誘するものではありません。また、CAMが運営する投資信託に当銘柄を組み入れることを示唆・保証するものではありません。当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。